

人口の動き

11月末現在	
出生2人	死亡4人
転入4人	転出5人
世帯数 1,272世帯(±0)	
男	2,735人(-2)
女	2,832人(-1)
計	5,567人(-3)



上桐 柄沢 正子さん (世帯主・峯一郎さん)



柄沢正子さんは、吉田町・榎ファミリアデパート、サフライ吉田店に勤めておられ、昭和六十三年秋に峰和さんと結婚されました。正子さんは五頭山で知られる北蒲原の笹神村から嫁いで来られました。

主人の峰和さんは与板郷消防署の中の島分遣所に勤務され、消防、急救活動に活躍中です。

柄沢さんは現在、父母、若夫婦そして弟さんの五人家族です。村の印象はいかがですか？

雪は少ないし、高い山もなく災害の恐れはなく、国道も通りやすい所だと思います。

しかし、この辺(自宅付近)は道が狭く行き止まりになっていきますので気になります。

——店で消費税の影響は何か感じますか？

そうですね。実施された四月はやはりお客さんが減ったようです。最近はどうやらまあまあ

です。

——村や地域に対して何か意見や要望はありますか？

私がこの人と始めて会った時、和島村と聞いてどこだろうと思いましたが、よく話を聞いてみると寺泊町と出雲崎町の間と言われ地理的にようやく解りました。新潟県内に住んでいる人でも私みたいな方が多いのではないかと思います。これから良寛の里オープンに向けて和島村を宣伝してほしいと思います。

村史の窓(第十一号)

村役人の新年

今回は新年にちなんで、江戸時代の村役人の新年の勤務ぶりについて紹介してみます。柄澤博士所蔵文書の中に「御用留」と通称される帳面があります。

敦ヶ曾根始山田留メ、出入御給金路用并御詔もの、明廿日相渡候間印形為持可被指出候以上

正月十九日 大庄屋元 右村々

(安永六年一七七七)

庄屋中

「御用留」とは、江戸時代の名主・庄屋などの村役人が村政執行上必要な文書や諸事項を書き留めた帳簿(「国史大辞典」6吉川弘文館)で、その内容や表題も多種多様です。

(史料2)

敦ヶそね初山田留メ、大庄屋元、年礼明後十日各々御勤可相成候 以上

正月八日 大庄屋元 右村々

庄屋中

柄澤博士所蔵の「御用留」は「万留帳」「万御用留帳(帖・牒)」等と表記され、大庄屋所からの示達・通達文書の写しを中心となっています。その「御用留」の記事の中から、新年の村役人の仕事についての記事を拾ってみました。

(史料1)

御用有之候間、明後十日各々直参可有之候

一、新登り出入十日二同道可有之候 以上

正月八日 大庄屋元 右村々庄屋中

一月八日に地藏堂組大庄屋から示達が届き、一月十日に各村の庄屋が年頭の挨拶に出頭するのが恒例であったようです。その際に「出入(江戸屋敷奉公人)」を同道し、又は翌日以後引率していった年もあったと思われま

す。この後、五人組帳や宗門帳の書き加え・削除・点検の業務が続きます。一月七日以前の業務はなかつたようです。(永井洋二)



輪郭を現した「良寛の里」美術館

良寛の里美術館の建設工事が着々と進んでいます。建物の外郭は十一月で完了し、一月から内装工事に移る二月末に完了いたします。村道工事及び茶室造園工事も平行して進めています。引き続き平成二年度は観光物産館、歴史民俗資料館をメインとした物産館ゾーンの建設を実施し、平成三年四月オープンを目指す予定です。

主な内容

- 2・3頁…年頭のご挨拶
- 4頁…4人に表彰状、良寛さまの生涯
- 5頁…良寛の里美術館、展示遺墨等貸借契約締結、読者リレー
- 6～17頁…家庭の日作文
- 18・19頁…ワシマスポット、村長室の黒板
- 20・21頁…お知らせ広場
- 22頁…わしまのよめさん、村史の窓



年頭のご挨拶

和島村長 清野 精合

明けましておめでとうございます。昨年は年の始めに新しい天皇をお迎えして年も平成と改まり国民挙げて旧を送り、新に向かつて歩を進めた年でありました。村政に大変ご協力を賜わりありがとうございました。

国際化が益々進み、国の内外は激動を続けてまいりました。貿易収支不均衡は正、農産物解放、発展途上国の急進等わが国を揺がす諸環境は誠にきびしく、国内 税制改正並びに選挙に明けくれた年でありました。

然し国内経済は、外注、内需共活発一路を進み公共投資、民活と景気が安定大型化し、国地方を通じて財政の好況をもたらしました。

村の行財政も大型プロジェクトを組んだ仕事を抱えながら順調に進めてまいりました。

さて本年は午年であり、跳躍躍進の年とされており、単なる跳び上がりでなく地に歩をつけた年にしたいものであります。

村民皆様のご協力の下で、生活環境整備、所得基盤の整備、教育文化施設の内容充実と進めてまいりましたが、国道バイパス県道の改良も計画通り進展し与板北野線も本年完了し、阿弥陀瀬遂道の測量等も期待され、各路線の歩道工事も引続いて進捗するものと思えます。

生活環境整備のしめくり、画竜点睛となる下水道は、島崎地域における特定環境保全公共下水道、両高地域における集落

排水事業として昨年に続いて本年も推進することになります。

産業基盤の整備は、昨年立地操業開始の二社を始め、本年も用地の造成をはかって企業誘致を進める所存であります。

只危惧されることは、人手不足が全般に亘って深刻な状況を呈していることでもあります。

農業は水田農業確立後期対策に入り前年同額の減反配分となりましたが、美味しいコシヒカリの生産を推し進める考えであります。桐島地区を主体とした再圃場整備も農家各位の理解と関係機関団体の相互協力の中で進めてまいります。

ふるさと創生、むらおこしの柱として推進しております良寛の里美術館もその外観を現わし本年は物産館ゾーンの工事を着工いたし、平成三年春へのオープンに向けて一意専心、これを推進いたします。

東京一極集中が進み、総人口の二五%にも当る三千万人がこ

の地域に住んでいると言われています。新幹線、関越北陸の二道の開通によって逆に東京に集中し、地方の人的資源が不足し諸産業が低迷しています。

この時こそわが村のように空气清新、水清く緑豊かなこの地に田園文化の村を創造して都市人を招き、郷土へのUターンを進めることが今後に与えられたいわが村の課題であります。

地域に根ざした文化を創造し心豊かな人間性とふれ合う村づくりを進めることが肝要であります。豊満経済にひたり、美食生活に疲れ嫌悪した人々が必ずやってくるであろう村づくりが大切であります。

文化を創造し、ふるさと創生の柱として良寛の里事業を推進いたします。村民各位のご理解とご協力をお願いいたします。

どうぞ干支にあやかって生々発展できる基礎体力を保持し、健康な一年でありますように祈って年頭のご挨拶といたします。

ぼくがさき あせる心は じこのもと



和島村議会議長 山田 忠

新年のごあいさつ

平成二年の新春を迎え、村議会を代表し謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

激動の昭和時代が終わり、平成と改元されて既に二年目となりましたが、国の内外にも天地にも平和が達成されるといふ新元号の意味のとおり、豊かな社会環境と地域の繁栄を心から念じてやみません。

皆様には平素村議会の活動に対し、格別のご支援と絶大なご協力を賜わり、深く感謝申し上げますとともに、いよいよ二十一世紀を展望した新しい時代の議会として、一層の充実発展を期す所存でありますので本年もよろしくお願い申し上げます。

顧みますと、昨年は個性に豊んだふるさと創生の柱として、良寛の里建設事業の着手を始め、農村総合整備モデル事業、公共下水道事業、道路並びに防災施



首都圏ふるさとわしま会会長 宮田 清一

新年のごあいさつ

郷土の皆様、新年おめでとうございます。

旧年中は、会に対しまして格別なるご高配を賜わり、誠にありがとうございました。

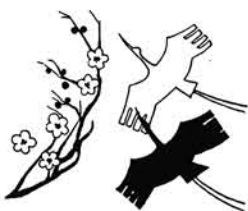
本年は会発足、初代早川会長以来丁度十年を迎えることができ、意義深い年でもあります。これも偏に皆様の温かいご支援と、会員の郷土愛に依りますところの力添えの賜物と、役員一同深く感謝致しております。

さて、昨年の総会には清野村長さんを初め山田議長さん外多数のご出席を頂き、また郷土の近況などご報告頂きましたが、その中であつてとりわけ良寛の里や公共下水道の事業に真剣に取り組まれている様子には、ただただ感動致しております。

そこで我会におきまして、微力ではありますが十周年事業の一端として良寛の里に、桜の

苗木を百本贈らせて頂くことになりました。どうか会員各位の郷土愛の形としてのこの桜を、お育て下さいます様お願い致します。

終わりに、ふるさと和島村の益々のご発展、並びに皆様のご健康を心より祈念いたしまして年頭のご挨拶と致します。



こうさてん おすな さわぐな ふざけるな

四人に表彰状

村の発展に尽力された方々に昨年十二月二十一日(木)、役場から十二月定例議会のさなか村長から受賞者一人ひとりに表彰状と記念品がそれぞれ贈られました。

功労表彰

☆夏井 求馬氏 (東保内)

夏井さんは昭和四十九年十一月から農業委員会委員として四期十二年間、また、昭和六十二年八月からは村議会議員として現在も活躍中です。

☆小黒 久雄氏 (上桐)

小黒さんは昭和五十五年一月から大字上桐区長として十年間務められ村政の発展に尽力されました。

☆羽入 美子氏 (駅前)

羽入さんは昭和三十四年十一月から三十年間にわたり村の職員として務められ現在も活躍中です。

善行表彰

☆早川 滋氏 (川端)

早川さんは村社会福祉協議会へ多額の寄附をされ、社会福祉協議会の発展に寄与されました。

ありがとうございました

共同募金一、二三六、四六二円

十月一日から実施致しました赤い羽根共同募金につきましては、区長はじめ、事務所、学校、村民の皆さんの協力により別表の実績をあげることができました。厚くお礼申し上げます。

会福祉協議会に約九十七万円交付され、本村社会福祉の財源として活用されます。
○戸別募金 八九三、七〇〇円
○事業所募金 一三六、〇〇〇円
○学校募金 四九、〇五二円
○その他 五七、七一〇円
同募金会へ納入し、平成二年度に募金の配分金が和島村社

地域名	募金額(円)	地域名	募金額(円)
上小島谷	23,000	上桐	65,100
中小島谷	29,400	三瀬ヶ谷	10,500
下小島谷	37,800	北野	32,200
駅前	78,900	根小屋	14,000
下富岡	39,900	荒巻	38,500
若野浦	10,500	新田	16,800
阿弥陀瀬	21,700	中央	28,000
高畑	15,400	下町上	37,800
日野浦	33,600	下町下	44,800
中沢	39,900	川端	28,000
梅田	13,300	道城下	21,700
東保内	49,000	法善町	15,400
村田	44,100	寺町	17,500
城之丘	28,000	小谷	4,900
両高	53,900	合計	893,700

良寛さまの生涯 (十)

乙子神社寓居時代(続)
峨眉山下橋

不知落成何年代 峨眉山中国書法温雅且清新 四川省の名山分明峨眉山下橋 佛教の靈山流寄日本稚谷浜 分明はてはり知らず落成いずれの年代ぞ書法は温雅にしてかつ清新 分明なり峨眉山下の橋 流れ寄る日本稚谷の浜

来年度中国四川省峨眉山下にこの詩碑を建てるべく京都大学名誉教授の柳田聖山先生の主唱で計画され石碑も稚谷浜より船積されることになって居り、これが建立されると海外における良寛碑の第一号となる。

峨眉山 柳田聖山先生画



島崎へ転居 「世の中に交らぬにはあらねども独り遊びぞ我はまされる」と言われた良寛さまも寄る年波(七十歳近くなり)に人里近いとは申せ民家より離れた草庵での一人暮らし、ことに前年は大雪に見舞れ体調も思わしくなく生活の不便と孤独の寂しさがひしひしと感ぜられて来たものと思われる。

和島村良寛会 会長 加勢彦四郎記

良寛の里美術館 展示遺墨等貸借契約締結

かねてから折りにふれてご紹介しております「良寛の里」整備事業も、村民各位のご協力により予定通り進んでおります。

この事業の柱となりますところの「良寛の里美術館」も次第にその姿を表してまいりました。去る十二月十三日にこの「良寛の里美術館」の常設展示室へ展示する遺墨の貸借契約を締結いたしました。

調印には、遺墨ご所蔵の有限



担当区域	住所(集落)	氏名	電話
上桐・三瀬ヶ谷	上桐	小黒 勲	74-2594
北野・根小屋・荒巻	北野	羽入 松雄	74-2596
新田・川端・道城下	川端	本間キクイ	74-3285
中央・法善町・寺町・小谷	小谷	長谷川秀郎	74-3575
下町上・下町下	中央	宇木 佳	74-2571
上小島谷・若野浦・阿弥陀瀬	上小島谷	藤田久四郎	74-2712
中小島谷・下小島谷・梅田	中小島谷	金井 和子	74-2533
下富岡・駅前	下富岡	新保 勇雄	74-3262
高畑・日野浦・中沢	中沢	大矢 昭子	74-2396
東保内・村田	東保内	佐藤 照子	74-2303
城之丘・両高	両高	山口 艶子	74-2598

新民生委員・児童委員紹介

平成元年十二月一日付で次の方々が厚生大臣より新民生委員、児童委員に委嘱されました。民生委員は、一定の区域を担当し、その区域に住む人達の生活状態を把握して、保護を要する人を適切に保護指導行なうなど、地域住民の福祉増進に努めることを任務としています。

また、新民生委員は児童委員を兼務し、児童等の福祉に関する援助および指導を行ないます。どうぞよろしくお願いいたします。

新民生委員・児童委員紹介

われら仲間シリーズ(76) 和島の連中



和島には、とても楽しく、にぎやかで、いろいろな「大家族」が集った様に「連中」と言う名の集りがあることを嫁いで初めて知りました。はじめはとても不思議でした。

主人達は、町内も職業も別々の十一人の会で、月一回の集りを、とても楽しそうに、出かけて行きます。

そのうち、夫婦、子供達の、参加が、年一、二回あり、顔を合せるうちに、私にも主人達の気持が、わかる様になりました。久しぶりに、会う時、



次は中央の木村佐和子さんを紹介いたします。

明るい家庭づくり運動作文

和島村青少年育成村民会議
和島村教育委員会



かぞくのしようかい

桐島小一年 おぐろ みゆき

おじいちゃんは、とてもやさしくて、じゆうちようがなくなつたときにいつでもかかってきてくれます。

おばあちゃんは、わたしが学校からかえつたときに、いつもおやつをくれます。

おとうさんは、ブルボンからかえつたあとに「かたをもんで」といつもいけど、やさしいこえでいってくれます。

「しんぶんもってこい」とか



もいうけど、やさしいこえでいねいにいってくれるからいいです。

おかあさんは、やすみの日にパコとかにつれていってくれます。それにおかあさんは、りょうりをつくるのがじようずです。

にいちゃんは、いじめるときもあるけどかわいがってくれるときのほうがいっぱいです。

わたしは、みんながかわいがってくれるからしあわせです。



おてつだい

島田小一年 まつながあや子

にちよう日に、おばあさんとわたしと、はたけで、だいこんほりをしました。

はじめに、おばあさんがだいこんをほりました。

わたしは、見ていました。

おとうさんがきて、「なにしているの」とききました。

おばあさんが「だいこんほりをしてるの」といいました。

おとうとのけいすけは、うちにかえていきました。

また、おばあさんがだいこんほりはじめました。

大きいだいこんや、小さいだいこんが、いっぱいとれてたいへんでした。

わたしは、あらう手つだいをしました。

水があんまりつめたくなかつ

たからよかったです。

らいねんもだいこんとりの手つだいをしようとおもいます。

おじいさんとおとうさんは、かきもぎをしてから、かきの木をきりました。

わたしが「どうしてきくの」ときいたら、おじいさんが「でんきのせんにじやまになるからだよ」といいました。



その木をよしました。

おかあさんは、おひるごはんをよしました。

わたしもおひるの手つだいをよしました。

おかあさんは、わたしに手つだいをいっばいいっけました。

おかあさんは、おひるごはんをませごはんしてくれました。

「みんながおいしいなあ」といってたべました。

ひるやすみをしてからおかあさんとゆうごはんのかいものよきました。

おかあさんは「ゆうごはんをなににしようかなあ」といってかんがえました。

わたしもいっしょにかんがえて手つだいをよしました。

またおかあさんや、おばあさんや、おとうさんや、おじいさんの手つだいをいっばいしようとおもいます。

おみせへおつかいにいきたいとおもいます。

お手つだいはたのしいです。



ぼくのかぞく

桐島小二年 早川 直

ぼくの家族は、八人家族です。おとうさんは、会社につとめています。

夜の七時半ごろ帰ってきますが、しごとがいそがしい時は、ぼくがねるまでに帰って来ないこともあります。

ことあります。だから、あまりあそんでもらえません。

妹のまは三才です。車の音がして、おとうさんが帰って来たたわかとへやのすみにかくれていて、「わっ」といっておどかします。でも、いつもするので、おとうさんはもうわかっています。

おかあさんは、びよういんにつとめていて、毎日きんむひょうがちがうので「大へんなんだなあ」と思います。

朝出かけて行ったり、夕方ほかたちが学校から帰ってくるころ出かけたたり、ぼくたちがねむつてから出て行ったりします。

そういう時は、ぼくが朝おきてもいけません。日曜日あまり休みがありません。お正月もみんなが休みだけれど、夜きんだ

といっていました。

おばあちゃんは、朝早くおきてごはんを作ってくれます。昼十一時ぐらいにもごはんを作ってくれて、夕方の五時ぐらにも作ってくれます。

おじいちゃんは、まどをふいたり、ファンヒーターにせきゆを入れたりしてくれます。

おじいちゃんとおばあちゃんは、二人でよくはたけに行きます。

だいこんやかぼちゃやにんじん、ごぼうなどを作ってくれます。ぼくは、きんぴらごぼうが大すきです。

おばあちゃんは、ぼくたちのおへやのそうじをしてくれます。

おにいちゃんは、小学校の四年生です。ぼくが何かわからないことを聞くと、おしえてくれますし、プラモデルが作れない時は手つだってくれます。

ぼくは、おにいちゃんが大好きです。それから、妹のまは、ぼくが学校へ行く時、「車に気をつけるんだよ。一人で帰って

来るんじゃないよ。」などと、おばあちゃんの口まねをしています。だから、ぼくは、「わかつたよ。」といいながら家を出ます。

ぼくの家は、とてもたのしい家です。

ずっと前の日曜日に、ぼくは、弟といっしょにテレビのマンガを見ていました。

マンガがおわつてからそとに出ました。

そしたら、おとうさんとおかあさんが一りん車で木をよこんでいました。

ぼくは、おもしろそうだったのでおとうさんに「ぼくにもさせて」といいました。

おとうさんが「いいよ」といいました。

ぼくは、うれしかったです。

木というのは、おふろの火をたく時につかうのです。



おふろに入ったらなおつたよ

島田小二年 平沢 たかのり



ぼくが、くつをはいてそとに出たら、弟が「ぼくもいく」といってついてきました。

おとうさんが木を切つて、おかあさんがその木をよこんでいました。

ぼくが、おかあさんのそばに行くと「できるか」といいました。

ぼくは「できるよ」といいました。

ぼくは、一りん車に木を入れました。

そして一人で一りん車をおしました。

ぼくのうちは、さかがある

で、とても大へんでした。

足がすべつてちよつと一りん車がかりました。

そしたら、木がちよつといっばいおちました。

おかあさんのそばにいた弟が、とんできました。

そして「にいちゃん、ぼくが入れるよ。」といって木をひろつて入れてくれました。

ぼくは、とつてもうれしかったです。

弟は、きかんぼうです。

時々けんかをするけどやさしい時もあります。

さかがおわつたら、弟はまた

おかあさんのところへ行きまし
た。ぼくは、その時「ゆうま、あ
りがと。」といいました。一
大きい木や小さい木をいっば
いはこびました。
たきもん小やは、すごくいっ
ぱいになりました。
ぼくはその木を見て「こんな
にいっぱいはこんだんだな。」と
思いました。
お昼になったので、ラーメン
を食べました。
とってもおいしかったです。
ちよつと休んで一時ごろ、ま
たはこびました。
ようじに行っていたおばあち

やんも、お昼から手つだつてく
れました。
おばあちゃんは、ちよつとど
け大きい木を手ではこびました。
夜になってから、足がいたく
なりました。
でもおふろに入ったらぜんぶ
なおりました。
ぼくがはこんだ木で、おふろ
をたいたんです。
ぼくは、いきもちになりました。
おとうさんが「がんばったな。」
といました。
ぼくは、またやろうと思いま
した。



家族みんなで、何でも話し合
ったり、笑ったりできるからで
す。
ある時は、困ったことやつら
いことなども話し合うこともあ
ります。
話し合っているうちに、だん
だん勇気がわいてきたり、力が
出てきたりします。
本場に夕食後の時間は私にと
って、すばらしいひとときです。
日曜日には、姉と私とで、父、
母や祖母の手伝いをします。
父の手伝いは冬囲いの手伝い
やコーヒーを入れたりすること
です。
母の手伝いは買物や畑仕事や洗
たく物を干したり入れたりする
こと、また食事を作ったりする
ことです。
祖母の手伝いは、台所やげん
かん、居間、茶の間、ろうかな
どをそうじすることです。
仕事の中で一番大変なのが、
母の手伝いです。
特に、畑のそば取りや花植え、
大根取り、食事のじゅんび、あ
とかたづけなどです。
大へんな仕事でいやなことも
ありますが、終わったあとで、み
んなが喜んでくれるのでとて
うれしです。

とくに母が一番家の仕事をた
くさんしてくれるので、大へん
だなあと思っています。
これはひみつだけど、わたし
は母が一番好きです。
なぜかという、あまりやさ
しくないけれど、つかれていて
も遊んでくれるし、私たちのこ
とを一番りかいしてくれるから
です。
私は、これからも、もっとお
手伝いをして家族みんなが楽し
い生活ができるようにしたいと
思っています。

わたしの家族

桐島小三年 早川 絵理子



私の家族は祖母、父、母、姉、
弟、そして私の六人家族です。
みんなのたん生日には、プレ
ゼントをあげたり、ケーキを食
べたりして、みんなでお祝いを
します。
今年の私のたん生日には、サ
インペンやケーキや黒いうで時
計をプレゼントしてもらいまし
た。
また、私はみんなのたん生日
には、それぞれ、かべかけや、
ノートなどをプレゼントしまし
た。私の家は、いつも夕食後には、
みんなでいろいろのことを話し
合います。
友達のことや学校であったこ
となどが中心になりますが、そ
のほかにもいろいろなことが話
し合われます。
時には、トランプやゲームも
します。
しゅくだいを見てもらったり
もします。
私にとって、一日で一番楽し
い時間が、この夕食からぬるま
でのひとときです。



お父さんが帰ってきた日

島田小三年 片桐 綾

お父さんは、ある日、中おう
病いんに入りました。
それは、こしがいたいためで
す。
入いんする前から、お父さん
は、「こしがいたい、こしがい
たい。」と言いながら、はたらい
ていました。
その時は、おにいちゃんがい
つも、おんぶしておふろにつれ
ていたり、トイレにつれてい
ったりしました。
まもなく、お父さんは入いん
しました。
お父さんが、いなくなったら
きゆうにしずかになつてすごく
かなしかったです。
何日かたって、おかあさんが病
いんから帰ってきました。
そして、「お父さんが、あと
一しゅう間で帰ってくるんだっ
て。」と言いました。
わたしは、ワクワクドキドキ
でむねがいっぱいになりました。
わたしは、お父さんが帰って
くる日に、カレンダーに◎のし
るしをつけておきました。

いよいよその日になりました。
わたしはお父さんをむかえに
病いんまでいきました。
お母さんとおにいちゃんと三
人で行きました。
お父さんとひさしぶりに会い
ました。
わたしは、むねがどきどきし
てました。
わたしの、その時の気持ちは
大かんげきです。
お母さんもおにいちゃんも二
コニコしてました。
わたしは、お母さんもおにい
ちゃんもきつとすごくうれしい
んだなと思つてました。
お父さんはわたしをつれて、
病いんでお友だちになった人や
おせわしてもらった人たちにあ
いさつに行きました。
お父さんはすごくうれしそ
うでした。
へやをかたづけうちに帰り
ました。
車にのっている間、わたしは
お父さんに「病いん、楽しかつ
た。」と言つたら、お父さんは、



楽しい私の家

桐島小四年 小黒 真美



私の家庭は、とても明るい
です。
私の家は四人家族です。
お父さんと、お母さんとお兄
ちゃんとお姉さんです。
私のお兄ちゃんは高校一年生
です。
いつも私といっしょに遊んで
くれるとてもやさしいお兄ちゃ
んです。
私がいっぱいお父さん、お兄
ちゃんやお母さんにおこられた時な
ど、私がふくれていると、お兄

わたしは病いんに行く前のお
父さんとくらべて、元気になっ
たなあと思つてました。
その夜はかんばんをしました。
みんな「お父さんよかつたね。」
といったらお父さんは「うんよ
かつたよ。やつぱり家の方がい
いなあ。」といつてました。
一番うれしそうなのは、お母
さんでした。
わたしは七はりぬいめがあり
ました。
いたかつただろうと思いまし
た。
わたしは病いんに行く前のお
父さんとくらべて、元気になっ
たなあと思つてました。
その夜はかんばんをしました。
みんな「お父さんよかつたね。」
といったらお父さんは「うんよ
かつたよ。やつぱり家の方がい
いなあ。」といつてました。
一番うれしそうなのは、お母
さんでした。
して作っているそうです。
「お母さんのお料理が、どう
しておいしいの？」ときくと、
「あいじょうがいっぱい入つて
いるせいで。」といひます。
そばでお父さんが「おふろく
の味をわすれるなよ。」と言いま
した。
そして私に「真美も女の子な
んだから料理がうまくて、心の
やさしい女の子にならないとい
けないよ。」と言ひました。
「私はお母さんみたいになん

かなれないよ。」と言いました。
そしたらお母さんが「真美も
もうすぐ五年生になるんだから
少しずつお母さんのお手伝いを
しながらおぼえていけばいいよ、
さい初から上手な人はいないん
だからね。」と言いました。
私は、楽しそうだなこれから
もお母さんのお手伝いをいっば
いして、料理をおぼえようと思
いました。

次の日、お母さんが「真美。」
と台所でよんだので行ってみま
した。

そしたらいきなり大きな魚が
見えたのでびっくりして「その
魚なんという魚？」と聞いたら
「さばだよ。これからこの魚を
切るから見ていなさい。」と言っ
て、さっさと切ってしまいました。

私は、見ていて血が出たり、
はらわたが見えたりしたので「き
たない。」と言いました。

するとお母さんが「これをし
ないと食べられないんだよ。真
美の好きなさばのつけを作っ
てあげるよ。」と言いましたが、
私は「えーっ。」と思いましたが、
そして、夕ごはんのときはばの
つけを見てさっきまでは、こ
しらえるのを見たので食べれる

かなあと思いましたが、おいし
そうだったので二こも食べてし
まいました。

私は「お母さんって、やっぱ
り料理が上手なんだなあ。」と思
いました。

お父さんも「一日仕事して帰
ってきてからみんな食べる夕
食が楽しいなあ。」といつも言い



島田小四年 高橋 徹

祖父の入院で考えたこと

家族がみんなそろっている
のが一番いいと思ったのは、祖
父が入院してからです。

「どうしよば。どうしよば。」
祖母は、少しなきそうな顔で
何回もいっていました。

ぼくが三年生の時、日赤病院
から電話がかかってきました。

祖父が仕事小屋根から落ちて
入院したということでした。

それで母が父に「おじいさん
が、屋根から落ちて入院した。」と
いうことを連絡しました。

父が早く帰って来て、みんな
で祖父のところへ行きました。

病院について祖父の部屋に行
くと、祖父は目をつぶっていま

ます。
お母さんこれからもおいしい
料理を作ってください。



祖母たちが、病院にいること
を思い出して、少しさみしくな
りました。
次の日、学校から帰ると、ち
ょうど病院におみまいに行くこ
ろでした。

ぼくは着がえて、いっしょに
ついて行きました。

祖父のベッドのそばにいくと、
祖母が「徹、待っていたよ。」と
言いました。

そして祖父も、「おお、徹か。」
と喜んでくれました。

昨日よりも少しは元気そうで
した。

家に帰る時には、いつも「早
くおじいちゃんが見たい院してこ
ないかなあ。」と思いましたが、
祖父のいない一カ月間はさび
しかったです。

祖父がたい院してきました。

家でもしばらく、まつ葉づえ
を使って歩いていましたが、家
族がそろってうれしかったです。

夜、ねる前に大きな声で、「お
じいちゃん、おばあちゃん、お
やすみ。」と言うと、祖父と祖母
の大きな返事がかえってきたの
で、気持ちよくねられました。

家を帰って夕飯をすませて、
ねる時に祖母たちの部屋の前で
「おばあちゃん、おやすみ。」と、
言ってもだれも返事をしません
でした。

祖母は、「おめさん。」と心配
そうに祖父に話しかけました。
すると、祖父はそつと目を開
けました。
そうしたら、祖母は「死なな
くってよかった。」と安心したよ
うな顔で見えていました。

父もそばで、やさしそうな顔
で見えていました。

そして、地下の売店へ行って、
おかしを買って祖父の部屋に行
きました。

ぼくは、祖父を元気づけよう
として、おもしろいお話をしま
した。

祖父が、にこにこしながら聞



お母さんが旅行に行った日

桐島小五年 関川 大樹

「お母さんやおばあちゃんが
ご飯を作るのは、当り前だ。」ぼ
くは、ずつとそう思っていました。

ある日、お母さんとおばあち
やんが旅行に行きました。

ぼくと、父と兄が家に残りま
した。

ぼくは「たまにいないほうが
いいや。」と思いました。

だっていつもおなじ生活をく
りかえているからです。

その日の昼食は、カレーでし
た。

それは、お母さんが作ってお
いてくれたものでした。

その夜、父の帰りがおそくて、
ぼくと兄は勉強して待っていま
した。

夜がこんなにこわいとは、こ
んなにもおなかがすくものとは
思いませんでした。

やっと父が帰ってきて、料理
に取り組みました。

夕食はヤキソバでした。

ちよつとむずかしそうでした
が、うまくてきました。

次の日、朝食は買ってきたパ
ンですませました。

その夜は、ぼくは剣道があつ
たので、生ラーメンを作って食
べました。

をむかえに長岡へ行きました。

ぼくはお母さんに会った時感
動しました。

いままでのこわさ、くるしさ
がぬけていきました。

お母さんがいつも言っている
けど、なおせないことが一つあ
ります。

フケツル(反抗)です。

ぼくは気に入らないとフケツ
ッてしまいます。

これを直してお母さんを喜ば
したいです。

できるだけ、お母さんのいう
通りにします。

私の家は、新しいです。

八月の終りごろから住んでい
ます。

家が建つまでたいへんでした。

いろいろな人が、家を建てて
くれました。

お父さん、お母さん、大工さ
ん、祖父、祖母その他いろいろ

ことをきいて、お母さんを安心
させてやりたい。

おとうさんは、ぼくのために
いろいろアドバイスしてくれま
す。

とてもいいお父さんです。

おばあちゃん、ぼくの勉強
のためにいろいろ本、えん筆
など買ってきてくれます。

お守もいろいろ買ってきてく
れます。

兄は、ぼくの知らない漢字を
教えてくれたりして、とても役
にたついい兄だと思いました。

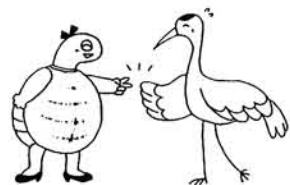
ぼくは、家族みんなによくし
てもらっているんだな。

ぼくはこの家族がとても気に
いっています。

でもしてもらっているほど、

自分家族にしてあげていない
気がします。

これからは、家族のために自
分ができることは何かを考え、
がんばっていききたいです。



ひつこし

島田小五年 中村 真澄美

お父さん、お母さん、大工さ
ん、祖父、祖母その他いろいろ

家を建てて
くれました。

お父さん、お母さん、大工さ
んなので、おじいちゃんに頭領

になりました。

家が建つ一年前からたいへん
でした。

お父さんとお母さんは、毎ば
んのように、おじいちゃんの家
に行つて、家のこと、仮り住ま
いのことなどいろいろはなして
いました。

相だんをしにいくと言うと、
わたしも行きたいというのです

なりました。

お父さんとお母さんは、毎ば
んのように、おじいちゃんの家
に行つて、家のこと、仮り住ま
いのことなどいろいろはなして
いました。

相だんをしにいくと言うと、
わたしも行きたいというのです

なりました。

お父さんとお母さんは、毎ば
んのように、おじいちゃんの家
に行つて、家のこと、仮り住ま
いのことなどいろいろはなして
いました。

相だんをしにいくと言うと、
わたしも行きたいというのです

なりました。

お父さんとお母さんは、毎ば
んのように、おじいちゃんの家
に行つて、家のこと、仮り住ま
いのことなどいろいろはなして
いました。

相だんをしにいくと言うと、
わたしも行きたいというのです

なりました。

お父さんとお母さんは、毎ば
んのように、おじいちゃんの家
に行つて、家のこと、仮り住ま
いのことなどいろいろはなして
いました。

相だんをしにいくと言うと、
わたしも行きたいというのです

なりました。

お父さんとお母さんは、毎ば
んのように、おじいちゃんの家
に行つて、家のこと、仮り住ま
いのことなどいろいろはなして
いました。

相だんをしにいくと言うと、
わたしも行きたいというのです

なりました。

お父さんとお母さんは、毎ば
んのように、おじいちゃんの家
に行つて、家のこと、仮り住ま
いのことなどいろいろはなして
いました。

相だんをしにいくと言うと、
わたしも行きたいというのです

なりました。

お父さんとお母さんは、毎ば
んのように、おじいちゃんの家
に行つて、家のこと、仮り住ま
いのことなどいろいろはなして
いました。

相だんをしにいくと言うと、
わたしも行きたいというのです

なりました。

お父さんとお母さんは、毎ば
んのように、おじいちゃんの家
に行つて、家のこと、仮り住ま
いのことなどいろいろはなして
いました。

相だんをしにいくと言うと、
わたしも行きたいというのです

なりました。

お父さんとお母さんは、毎ば
んのように、おじいちゃんの家
に行つて、家のこと、仮り住ま
いのことなどいろいろはなして
いました。

相だんをしにいくと言うと、
わたしも行きたいというのです

なりました。

お父さんとお母さんは、毎ば
んのように、おじいちゃんの家
に行つて、家のこと、仮り住ま
いのことなどいろいろはなして
いました。

相だんをしにいくと言うと、
わたしも行きたいというのです

なりました。

お父さんとお母さんは、毎ば
んのように、おじいちゃんの家
に行つて、家のこと、仮り住ま
いのことなどいろいろはなして
いました。

相だんをしにいくと言うと、
わたしも行きたいというのです

なりました。

が、つれていってくれるときもあるけれど、だいたいな話があるからと、つれていってつれないときもありました。

こんな時は、おばあちゃんたちと順番をしてみました。

大工さんが、作業場に仮り住まいを作りはじめました。

わたしは心配でした。

ふろはあるかな、トイレはあるか、水道はでるか心配でした。

でも大工さんは、ちゃんと作ってくれました。

わたしは、どのくらいで新しい家に住めるようになるかと、お父さんに聞いてみると、半年ぐらいと言いました。

わたしは三カ月くらいで、できるものと思っていたのでびっくりしました。

今度は、家をこわしました。

わたしは弟とあぶないからとは、親せきの家に行きました。

あとで写真で見ると、こわすときは、ヨンボでこわしたようです。

こわすときに、おばあちゃんがないと、おもしろいと思いませんか？

家がこわされているからかと思いましたが、

それから家に帰ってみると、

お父さんたちが、こわれた材木などをやっています。

こわれたあとは、とても広かったです。

それから、おほらいをして、家の形にコンクリートでかためていきました。

山の方から見ると、昔のお墓みたいでした。

それからすぐ柱をすぐ建てたのかと思いましたが、たてまの二日間たてていたので、二日で建てられるのかなと思いましたが、

クレイン車が出て、道を交通止めにして作っていました。

おかげさなあと思いました。

おかしをまくときに、いっばい人が来てくれるか心配だったけど、いっばい来てくれて、ほつとしました。

弟がおかしをまいていました。

わたしもおかしをまきたかったです。

それからどろみみたいなものを、かべにぬってかわかしてました。

夕方になると、わたしと弟はまだできていない家の中に入っていて、まわっていました。

どろみみたいなものがかわいて、大工さんたちが、外側のかべを



家族の大切さ

桐島小六年 本間 久美子

私の家族は、父、母、兄と私の四人です。

父は今、仕事の都合で上越市に一人で住んでいます。

母は、時々郵便局にパートに行くほかは、たいてい家にいます。

兄は高校一年生で、毎日部活だと言っていて、おそく帰ってきます。

私は小学校の六年生で、得意な科目は音楽です。

私の家での仕事の手伝いは、特別決まっていますませんが、私がひ

休まないでできてくれました。

家がどんできていって、ふろや台所、トイレ、洗面所などができてきて、わたしはうれしくなりました。

全部できてから、あずかっている物を持って、家具いろいろに入れました。

今では、もう新しい家になれています。

おじいちゃん、お母さんとおじいちゃんで見にいきました。

わたしも、いってみたかったです。

左官屋さんが、かべをぬって大工さんが、ゆかやいろいろな所を作っていました。

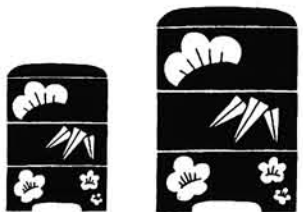
おじいちゃんは、建てるのがおもしろいので、休みの日も、思いました。

でも、時々、テレビを見たいのに、後から後から仕事を頼まれるので、いやだなあと思うこともあります。

生野菜を切ったりするのが好きですが、茶わんを洗ったりふいたりするのが好きではないので、それを「やってよ。」と言われるときは、いやだなあと思ってしまう。

でも母は「これもご飯の時は大事な仕事なんだよ。」と言います。

これからは上越市のアパート



で一人きみしく食事をする父のことを考え、おいしいおかず作りをやがらずにしたいと思えます。

他にお風呂を洗ったりします。

この仕事もいやだなあと思う事があります。

だけどたいいは、ちゃんと仕事をします。

それから時々、洗たくを手伝います。

洗たくで、私がいやなのは干すことです。

一枚ずつきちんと干していくのが、めんどろだなあと思う理由です。

それとたたむのもいやです。

これも一枚ずつ、ていねいにたたまなければいけないからです。

それでも、たいていの事は手伝っているのも母も喜んでいいます。

しかし母は私が「いやだなあ。」と思う仕事でもいつもきちんとやっています。

父は一週間に一度、金曜か土曜に帰ってきます。

そして家に帰ってきてからもよく働きます。

父は何でもよく知っていて、

お父さんたちが、こわれた材木などをやっています。

こわれたあとは、とても広かったです。

それから、おほらいをして、家の形にコンクリートでかためていきました。

山の方から見ると、昔のお墓みたいでした。

それからすぐ柱をすぐ建てたのかと思いましたが、たてまの二日間たてていたので、二日で建てられるのかなと思いましたが、

クレイン車が出て、道を交通止めにして作っていました。

おかげさなあと思いました。

おかしをまくときに、いっばい人が来てくれるか心配だったけど、いっばい来てくれて、ほつとしました。

弟がおかしをまいていました。

わたしもおかしをまきたかったです。

それからどろみみたいなものを、かべにぬってかわかしてました。

夕方になると、わたしと弟はまだできていない家の中に入っていて、まわっていました。

どろみみたいなものがかわいて、大工さんたちが、外側のかべを

仕事を一生けん命にします。

役所にいっても、一生けん命仕事をしてくれる父がいるから私達は安心してくらしていいのだと思えます。

母は、父のいない家の中の大事な事をみんな一人でやっています。

父は母がいるから安心して、仕事に行けるのだと私は思っています。

十一月の最後の日曜日に、私は父と兄と三人で、大根取りと大根ふせをしました。

母は用事があって出かけていきました。

十時ごろに、なわしろの畑に行くと、大根を取りました。

取った大根は、五、六本にまとめてなわでしばります。

それから車に積んで、家に持って帰りました。

家に帰って私と兄は、大根を運びました。

父は、土を掘って来ました。

それから私は、大根の葉っぱを切って、兄は大根をしばってあるなわをとりました。

兄は父が土を掘ったところに大根をねかせて、その後、父が土をかけて仕事が終わりました。

毎年やっている仕事ですが、

母一人いないと、やはり大変でした。

仕事をしている時にとでもうれしかったのは、「いい子らね。」とか言ってくれる人がいることでした。

私は「家の大根大きいなあ。」と思えました。

なぜかという、ふつうは大根は一本だけ、家の大根は、時々二つにわかれていたり、三つにわかれていたり、それがあるので。

この仕事が終わったのが、十一時半ごろでした。

畑仕事は疲れました。

この休日は母がいなかったため、みんなで昼食の用意をしました。

母一人いないと、やはり大変でした。

仕事をしている時にとでもうれしかったのは、「いい子らね。」とか言ってくれる人がいることでした。

私は「家の大根大きいなあ。」と思えました。

なぜかという、ふつうは大根は一本だけ、家の大根は、時々二つにわかれていたり、三つにわかれていたり、それがあるので。

この仕事が終わったのが、十一時半ごろでした。

畑仕事は疲れました。

この休日は母がいなかったため、みんなで昼食の用意をしました。



父と母へ

島田小六年 坂田 孝一

ぼくがこの作文を書くにあたり、母に「いつもやってもらっている事に、あらためて感謝しろ」と言われてもむずかしいんだよね。」と言った。

感謝される前にこっちの方が感謝しているわよ。」と母は言った。

それはどういう事かと聞くと

「あなたたちがいてくれたおかげで、人間としても成長できたし、どれくらい生活が楽しくなったかわからないわ。子供を育てる中に大きな喜び、喜びがあったのよ。私のところに生まれてきてくれて、ほんとうにありがとう。」とこっちが逆にお礼

を言われてしまった。

いつも心配や、めんどろを見てもらっているのに、そんなのどっこい楽しいのだから、子どものぼくにはわからない。

でもたぶん、それはぼくが大人になってからわかる事だろうし、今はわからないままでもい



いような気がする。
 そういえば小学校に入ったばかりの時は、ぼくよりもっとも大きかった母がふと気がつく、今はぼくと同じ背丈になっていった。
 生まれてからずっと、ぼくの世話をしてくれた母の手もあまりにも小さい。
 でも、その小さい手にはあたたかさや、やさしさがとてもいっぱいつまっているように見える。

ぼくを守り育ててくれた偉大な人がいつの間にか、話のしやすいう「友達」と言う存在になっていた。

「これから孝ちゃんはいろいろな知識を身につけて、大きくはばたいて行ってほしい。その翼の力をつけるのは自分だからね。」と母は言う。

この言葉にぼくは、今までの自分を反省する。

今までの自分は母や父に言われなければ勉強や、仕事をしない事が多かった。

それではいけないと思う。これからは母の言うように、自分の事は自分でする。

そして自分の将来のために、いろいろな物にすすんでとりく

み、大きな翼、大きな力をつけていこうと思う。

ぼくの父に対するイメージは「強くてたくましいけど、ちょっとこわい。」と言う感じだ。

いつもは、いそがしく遊んでいるが、ひまがあればよく遊んでくれる。

いつもぼくたちの事を考えてくれる良い父である。

難しい本やおもしろい本、いろいろな本の事を父は知っている。

父の話はおもしろく、夢があつてつい引きこまれてしまい、そのため自分のやるべき事も忘れてしまい、大あわてをする時がたまにある。

ぼくたちにカメラを向ける時の父は、とてもうれしそうに顔をする。

弟の邦明は父の注文に応じてポーズまでとる。

ぼくはちよつとてれくさい。

父はいつも「正義の人になれ」と言っている。

ぼくはまだ完全に「正義の人」という言葉をわかりきってはいないけど、できるだけその言葉に近づいて行きたいと思う。
 天台大師の言葉に「青は藍よりいでて藍より青し」とある。

父と母をこえて成長する事が感謝の証だと思う。

そしてそのきたいにそえるようがんばりたいと思う。

最後にお父さん、お母さん、今までありがとう。そしてこれからもぼくの事、弟の事をよろしく願います。



ぼくのおじさん

北辰中一年 大久保 貴仁

ぼくの家には、おじさんがいます。おじさんと言っても、そんなに若くはありません。おじさんのお母さんが姉妹だという要するにおじいさんとおじさんは、いとこ同志なんです。

おじさんは一人暮らしです。

家はぼくたちとは別にあります。しかし、おじさんは、自分では食事の準備など、そのようなことができないので、朝、昼、晩の食事の時、入浴の時、また一家そろっての仕事、たとえば田植えや稲刈りなどの大がかりな仕事などに必ず、我が家に来ます。

おじさんは、休みでないかぎり

り昼間は、仕事に行っています。つとめ先は、道城下の早川鉄綱所という所です。おじさんは仕事場まで自転車で通っています。それだけでなく、おじさんの交通機関は、どこへ行くときもすべて自転車です。

おじさんは、とてもやさし

です。たとえば食事中にぼくが、「しようゆがほしいなあ。」

と思っていると、もうしようゆ

を渡してくれるのです。また、ほかに、ぼくの自転車の調子が少し悪かったのを見て、直してくれたたり、ぼくが部活や剣道教室でおそくなって帰ってきたりすると、ぼくはいつも自転車

を自転車小屋の入口の所におくんだけど、それをいつも自転車小屋の中に入れてくれたり、と

そのようなことまでやってく

る、とても気のきくいおじさんです。それに、ぼくがまだ幼

かった時、自動販売機でジュースを買ってくれたり、とそんな

こともしてくれました。その時は、幼かったのになぜか、おじ

さんに、

「すまないなあ」と、思ったことがありました。

あの時のことは、今でも心の中に残っています。
 おじさんは、生まれた時から耳が不自由です。だから、口を

きくこともできません。ぼくは「とてもかわいそうだなあ。」と、思います。

しかし、おじさんは、ぼくたちと心で通じ合っています。だから、おじさんとぼくたちは、ジェスチャーで会話をすることが出来ます。それに、どうしてもジェスチャーでは通じないような言葉の場合、おじさんは、読めるのかどうかまいったくわからないのだけど、ぼくは紙に書いておじさんにみせてみます。そうすると、おじさんは、どうも読めるらしく、ぼくの頼んでいることや、言っているようなことがわかっていっているような感じがします。

「耳が不自由だと音が聞こえないので、こういう音を出せば『あ』と言う言葉が出るかわからないので、口をきくことができな

い。だから、耳の不自由な人は口をきくことができないのだ。」と、家族の言っていたことを聞いたことがあります。けれども、ぼくはおじさんが文字を読んだのではないかと、とてもそのように思えてなりません。しかし、それがどういう音でどういう言葉なのか、ということがわから

ないのに、読めるはずがないと思います。しかし、もしも本当におじさんがその文字を読むことができたなら、と、思いました。

おじさんは口がきけません。しゃべることができません。だから、どんな声かわかりません

もしも、おじさんが言葉を話すことができたなら、たった一言でいいから、どんな声なのか、聞いてみたいと思います。しかし、本当におじさんは、

「かわいそうな人だなあ。」と、思います。今の科学や医学

などがいくら進歩しているとしても、おじさんのようなかわいそうな人を治すことができないものでしょうか。

おじさんは、しゃべったりすることはできません。しかし、

ぼくたちと心がつながっています。それは、家族だからだと思います。おじさんがいてくれるおかげで、ぼくの生活は、とても楽しくて明るいのです。

ぼくは、こんなおじさんを持つ

って、本当にしあわせです。

だから、ぼくはこんなにやさ

しくて、いいおじさんを今まで

よりも一層大切にしていかなければなりません。



父に対しての思い

北辰中二年 小黒 由紀子

父と私は、顔が似ていると人に言われる。父も私も、似ているとは思っていないのだが他人から見れば似ているのだろう。

そのことに対して私は嬉しいという気もあるが、いやだという

「父親に似ていると、幸せになるんだよ。」

と言う。親戚の家に行っても、「お父さんに似てきたね。」

と毎度毎度言われる。昔は「父に似てきた」と言われても、べつになにも感じなかった。けれども、今、このようなことを言

われるとなにか心の中は、「自分

分は父に似ていない。」という気が、なぜか、こみあげてくる。

このように中学生になってからの私は、「父を好きだ。」と言えなくなりました。きらいなわけではない。父とのだら

んが少なくなってきたためなのだろうか。それとも私だけが、父を好きではないと思っただけなのだろうか。

私から見た父は、強気で少し

わがままである。けれども、本当は、ひょうきんで、やさしく、

少し無口な父だと言っても良いと思う。怒ると本当に誰よりも怖い父。でも、そういう所が、父親の本当のやさしさなのだから



う。私がおちこんでいたり、勉強のことで、悩んでいると、何も言わなくても、誰よりも私のことをわかってくれている。だが、最近、父の反抗ばかりしている。どうして、私は、もっと素直な娘になれないのだろうか。

私が小さい頃は、本当に父が大好きだった。父も、昔は何かと日曜は、ドライブにつれて行ってくれたり、バドミントン、トランプなどと、とってもよく遊んでくれた。今のことを思うと、なにかなくしたみたいなきもちになった。最近も父と弟が遊んでいるのを見るのが、うらやましく感じる。遊びたいわけではない。なにかこみあげてくるのに、けれども、その気持ちは、父には伝わらないだろう。

どうして、昔と今がこんなに変わったのだろうか。きっと私自身のせいだと思う。中学に入ってから私の生活は、だいぶ変わった。帰りも遅く、父とも、普通の日には、ただ「おはよう」「いってきます」「おかえり」「おやすみ」と言うあいさつだけである。休みの日は、父は、日曜の毎週と言っていいほど、朝からゴルフに行っている。

私も、日曜は塾があるため、やはり父とはあまり話ができない。それが、父に対する私の気持ちを变えたのだろうか。二年になると一年よりも私の生活は、おちついたが、やはりもう昔の父と私の気持はとりもどせなかった。そういうことでも、父とのだんらんが少なくなったのかもしれない。

父は毎晩、八時か九時頃帰って来る。だから夕飯は、日曜日以外めつたに、一緒に食べられない。無理なことを言っていると思うけど、夕飯ぐらいは一緒に食べたいというのが、私の一番の父への願いである。一緒に夕飯を食べれば、もう少し話ができるかもしれない。

また、父は、私から聞かない間にタバコをやめていた。そのぶん、お酒の量が増えはじめたような気がする。時々「肝臓に悪いよ」と言っても、ひかえようとはしない。父の酒好きの気持ちもわかるが少し、ひかえた方が、体のためにも良いのではないだろうか。娘の願いでも聞こうとはしない父だけど、お酒だけは、少しひかえてほしいという私の第二の願いだ。

私の長所、短所をわかってい

るようで、わかっていないような父、けれど、それで私はいいのだ。なぜかそういう気になっ

てしまう。父も、きっと私に対して、いっぱい願いがあるだろう。中学へ入って、父とのだんらんも少なくなったけど、父のことをきらいではない。私がいくらわがままを言っても、そのわがままを聞いてくれている。私の見えないところでもがんばって

だけで、私は本当に感謝している。これからは、なるべく父にはわがままを言わないよう父が自慢できるような、良い娘になるように努力したいと思う。今までは父には、どれほど迷惑をかけた



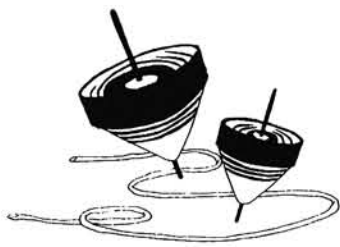
手伝いをして

北辰中二年 佐々木 美千代

今からだいたい一年前くらい、私の母に、あることがおきました。

その日は、普通に学校へ行き帰ってきて家の中へ入ったとき

に思えた。父から見れば、私はいつまでたっても子供という存在だ。けれど私はそれで大満足できていることを父に知ってもらいたい。今は、まだ父を「尊敬する人」と言えないかもしれないが、これからは、きっと父を「尊敬」という目で見ることができるようになる。そして、私も明日からは、今までとちがった自分で、私をみつめ、そして父を見つめていくことができるだろう。



無灯火は 乗る人見る人 まっくろけ

と言いました。つらさと痛さがこつちまで伝わってくる。そんな感じでした。母は、「いろいろなことを手伝ってな」と言いました。指をけがしたわけですから、もちろんほとんどできません。右手ですら全くできないといったほうがよいのかもしれない。

私はその日から祖母と一緒にふだん母がやっている家の中の仕事をやりました。

次の日の朝は、母がいつも作っている、父と兄のお弁当を作りました。本格的なもの、作ったことがないので、作るのに少し時間がかかりました。とても苦労しました。作っている時は、とにかく時間に間に合うようにお弁当の中がかわらないように考えて作り出しました。お弁当を作る手伝いをしてくださいました。ときどき、つらそうな顔をするので私は、「休んでて」と言いました。下手だけど、一応、二人分できました。うれし

いものがありました。少しでも母の、役に立てよかったです。同時に、作り終ったという、ほっと

した気持になりました。母は少し休んでから、また、家の中のものを片づけ始めました。自分の体のことは、自分がよくわかっていと思うので、私は、何もいみませんでした。父と兄には、あらかじめ私が作ったことを言っておき、許してもらいました。それから、学校へ行く仕度をして、洗たく物を干していつもよりだいぶ遅れて、出て行きました。やはり、最初の一日目は、思っていたより大変でした。

こんな日が、幾日か続きました。私が朝、たまに遅く起きてしまったとき、母は、もう起きて家の仕事をしていました。私がかろうとすると、「いいから、仕度しなさい」と言われました。少し手伝って

から、自分の仕度をしました。しだいに母の手はよくなり、顔色もよくなってきました。でも、やはり、心配なので、邪魔にならないように手伝いました。

母のけがが、完全に治ったとき、私は普通の生活にもどっていました。でも、夜など忙しいとき、自分から手伝うようになり、他にもいろいろなことで、家

の中の手伝いをします。母は、けっこう、体が弱いようで、頭が痛いとか、腹が痛いとかいいます。最初のうちは、冗談だと思っ

て話していますが、だんだん顔色が悪くなってくると、言われたことは、きちんとやります。でも、時々、自分のやりたくないことや、何かに夢中になってい

るとき、「ヤダ」と言って反抗することがあります。そして、ケンカになり、何か遅れて、手伝いを始めます。母が、大変で、手が足りないから手伝ってといっているのを、

でした。いつも、私より遅く帰ってくるはずの母がいたので、何故だろうと思いました。よく見ると繻帯を右手に巻いていました。首からかけていて、手

が下がらないようになっていました。顔をみると、とてもつらそうな顔をしていました。おかしいと思い聞いてみると、「機械で少し指がね……」



☆ワシマ

15本の水柱 火災想定訓練

昨年11月26日(日)、桐島地区農協ライスセンターからの出火を想定し朝6時30分から消火訓練を実施しました。この日、村の消防自動車2台や積載車4台、小型ポンプ6台また、与板郷消防署からタンク車の協力をえて総勢100名が参加しての大きかりな訓練となりました。訓練は近くを流れる荒巻川から取水し、火元に向けて15本の水柱が立ちました。この後、村内一円に防火パレードも行われました。これから寒さも一段と厳しくなります。暖房器具の取扱いには十分注意し、火事を出さないように心がけて下さい。



村民卓球大会

昨年十二月十日(日)、勤労福祉センター(体育館)と福祉センターの二会場を使い、公民館主催の卓球大会が行われました。今回は一般の人の出場は少なく小学生、中学生で会場はにぎわいました。

**善意を
ありがとう**

社会福祉に役立ててほしいと村社会福祉協議会にご寄附をいただきました。厚くお礼申し上げます。

村内 匿名様



村長室の黒板から

和島村長

達

- 十一月二十日 常夏の国地球最後の楽園と言われるタヒチからゴトーケイコさんが早川栄氏の案内で来室 村との交流を申し入れ、検討を約す
- 夜小島谷村政懇談会
- 二十一日 再圃場整備協議会
- 夜中沢郷村政懇談会
- 二十二日 良寛研究家故宮先生宅訪問 良寛の里協力懇請
- 二十三日 首都圏ふるさとわしま会総会
- 二十四日 B G財団陳情
- 二十五日 三校PTA協議会
- 二十六日 早朝消防訓練
- 二十八日 早朝消防訓練
- 二十九日 早朝消防訓練
- 三十日 早朝消防訓練
- 三十一日 早朝消防訓練
- 一月二日 早朝消防訓練
- 三日 早朝消防訓練
- 四日 早朝消防訓練
- 五日 早朝消防訓練
- 六日 早朝消防訓練
- 七日 早朝消防訓練
- 八日 早朝消防訓練
- 九日 早朝消防訓練
- 十日 早朝消防訓練
- 十一日 早朝消防訓練
- 十二日 早朝消防訓練
- 十三日 早朝消防訓練
- 十四日 早朝消防訓練
- 十五日 早朝消防訓練
- 十六日 早朝消防訓練
- 十七日 早朝消防訓練
- 十八日 早朝消防訓練
- 十九日 早朝消防訓練
- 二十日 早朝消防訓練
- 二十一日 早朝消防訓練
- 二十二日 早朝消防訓練
- 二十三日 早朝消防訓練
- 二十四日 早朝消防訓練
- 二十五日 早朝消防訓練
- 二十六日 早朝消防訓練
- 二十七日 早朝消防訓練
- 二十八日 早朝消防訓練
- 二十九年 早朝消防訓練
- 三十日 早朝消防訓練
- 三十一日 早朝消防訓練

- 四日 職員研修会
- 五日 農業所得協
- 六日 出雲崎議会と村議会の意見交流会
- 七日 全国治水砂防大会
- 八日 下富岡集落開発センター竣工式
- 九日 区長会
- 十日 文教委員会 県農業所得協地区会長会議
- 十一日 大矢家と良寛遺墨貸借についての契約調印
- 十二日 国保県連役員会
- 十三日 少年剣道教室

十九日 北陸農政局陳情

年末に際して

一月八日、昭和天皇崩去、今上天皇をお迎えし年も平成と改まる。地平らにして天成ると祈念し乍ら年が進む。世は税制改制と選挙で年が暮れた感がある。順調に進んだ天候も収穫期に致って毎日の雨、農家の苦勞が思いやられた。二年休んだ運動会は盛会にできた。景気は好況良寛の里事業も関係者の熱心な協力支援で順調に進捗する。世

は国際化時代を迎え、経済はもとより文化交流も盛んになってきた。タヒチから幼児二名が両親と離れ単独一ヶ月間滞在。教育費の故か、国情の故か、何れにしても感心させられる。今年希望如何、ふるさと創生、むらにおこしに専念することを自らに言いかけ筆を置き村内の安全をお祈りいたします。

☆ スポット ☆

第九回首都圏ふるさとわしま会 総会

今回で九回目を迎えた「首都圏ふるさとわしま会」の総会が昨年十一月二十三日(日)、東京目黒区の雅叙園観光ホテルで開催されました。当日は百三十名を越す会員が出席され、村からは村長、議長をはじめ島田、桐島両地区農協、商工会の代表など十数人が出席し、久須美、池浦両酒造会社から地酒が全員に配られました。総会は正午から始められ、宮田会長のあいさつや来賓祝辞、会務報告が行われ懇親会に移りました。懇親会ほどのテーブルでも、なつかしい話が多く飛び出し、ふるさとわしまを思い出されま



▲受付

▲総会々場

▲宮田会長のあいさつ

もちつき大会

昨年十二月六日(日)、桐島小学校でもちつき大会が行われました。今回で十五回目を数える毎年恒例の行事となり、桐島地区農業協同組合やPTAの協力をえて盛大に行われました。体育館では、もち米が蒸しあがるまでの間、田植え、さつまいもほり、稲刈り風景がビデオで放映されました。児童の代表三人から体験した農作業の作文発表もありました。ひきつづき、もちつきが行われ「よいしょ!」「よいしょ!」



▲ かわる代わる杵を手にする児童 ひと足早い正月気分 ▶



「う!」とかけ声が飛び、子供たちかわる代わる杵を手にして、ひと足早い正月気分になりました。

お知らせ広場

和島幼稚園 入園願のお知らせ

平成二年度の幼稚園の入園についてお知らせいたします。

◆受付期間は 一月十六日～一月三十一日まで

◆提出場所は 和島村教育委員会へ

◆入園の申し込みは 早目にお願いたします。

◆入園できる子供は 昭和五十九年四月二日～昭和六十年四月一日までに生まれた子供

不明な点は、次へ
○教育委員会 七四一三二一一
○幼稚園 七四一三六六八

国際結婚・こんな点が変わります 不平等撤廃へ法例改正

国際化の進展に伴い、最近では国際結婚が増えていきます。ところが、これまでは国籍や性別の違いによって、例えば離婚のときなど、男性側の国の法律だけが適用され、女性側の法律は考慮されていませんでした。そこで、法律の適用上でも男女平等に扱うことにしよう、法例の一部が改正され、平成二年一月一日から施行されます。どんな点が変わるのか、そのあらましを見てみましょう。

一、協議離婚が可能に
離婚については、これまで「夫」の本国法によるものとされ、国際結婚が増えています。ところが、これまでは国籍や性別の違いによって、例えば離婚のときなど、男性側の国の法律だけが適用され、女性側の法律は考慮されていませんでした。そこで、法律の適用上でも男女平等に扱うことにしよう、法例の一部が改正され、平成二年一月一日から施行されます。どんな点が変わるのか、そのあらましを見てみましょう。

二、親権者も平等に
これまで原則として「父」が親権者でしたが、例え、日本人女性と外国人男性のカップルの場合、外国人男性の本国法によっては離婚できないケースもあつたわけですが、日本に住所があれば、今回の法例改正で日本の法律が適用されることになりました。

三、養子縁組はより簡単に
国際養子縁組についても、これまで養親、養子の本国法が複雑にからみ、養子縁組の成立を難しくしていました。改正により養親の本国法に一本化され、分かりやすく、また、簡単になりました。

和島保育所

◆入所申請を受付いたします

- 1、入所資格
和島村に住所を有し、なおかつ家庭において保育が困難な状態にある乳児（満1歳に満たない者）及び幼児（満1歳から5歳までの者）
- 2、定員
120名
- 3、申請受付
(1)日時 1月18日(休)島田地区 午前9時～午後4時
1月19日(金)桐島地区 午前9時～午後4時
(2)場所 保育所 事務室
- 4、申請方法
役場住民課又は保育所に申請用紙が用意してありますので、必要事項を記入の上、当日ご持参下さい。
- 5、保育料について
現時点では平成2年度の国の徴収基準が決定しておりませんので、基準が決まり次第村の基準を作り、申請後それに基づき保育料を決定します。
《算定方法は、児童と生計を同じくする家族全員(児童の叔父、叔母は除く)の前年分の所得税額等の合計による階層区分による》
- 6、その他
不明な点がありましたら、役場住民課まで照会下さい。
(TEL 74-3111 内線28)

農業委員会委員選挙人名簿登載申請書の提出

毎年、一月一日現在による農業委員会委員選挙人名簿登載申請書を農業委員会まで提出しなければなりません。

次の事項に該当する方は、一月十日までに提出してください。

- 一、和島村農業委員会の区域内に住所を有する者であること。
- 二、年齢が満二十歳以上の者であること。三月三十一日現在(昭和四十五年四月一日生まれで)二十歳に達する者も記入してください。
- 三、十アール(一反歩)以上の農地につき耕作の業務を営む者。
- 四、耕作従事日数が年間おおむね六十日以上の方。
- 五、申請書の記入事項はすべて平成二年一月一日現在の状況を記入すること。

以上申請書の裏面にも記載してありますが、不明な点は農業委員会に問い合せてください。

一月中の国民年金

◆60歳になる人
昭和五年一月二日から昭和五年二月一日生まれの人は、掛金を掛け終わりました。

◆60歳以上65歳未満の人
支給資格期間を満たすことができない人、または過去に保険料の未納や免除があるため、掛金をして年金額を増やしたい人は、任意加入することができ

◆65歳になる人
大正十四年一月二日から大正十四年二月一日生まれの人は、老齢(通算老齢)年金の請求をしましょう。

◆現況届を出す人
今月生まれの受給者は、現況届のハガキが届いたなら、忘れずに早めに証明を受けて出しましょう。

期限まで提出しない場合は、年金が一時差し止めとなります。ハガキを紛失した時は、国民年金係に申し出てください。

一人で悩んでないで 心配ごと相談所へ

日常生活において悩みや、心配ごとを抱えておられる方は多いと思います。たとえそれがどんなにささいなことであっても、当事者にとっては切実な問題です。そんな時、心配ごと相談所を利用してはいかがでしょうか。

この心配ごと相談所の相談員は、弁護士などの専門家ではありませんが、問題解決に向けて親切に指導、助言いたします。

相談所は、毎月5日、15日、25日(当日が日曜、祝日の場合はその翌日)に総合福祉センターで開設されます。

相談員は下記の方々と、平成元年12月1日付で和島村社会福祉協議会長より委嘱されました。相談は無料で、秘密はかたく守られます。お気軽にご利用下さい。

氏名	住所	氏名	住所
藤田久四郎	上小島谷	塚田善平	駅前
山口正文	中沢	佐藤照子	東保内
菊地弘北	野	長谷川秀郎	小谷

国民年金も20歳がスタート・ライン!

新成人の皆さん、おめでとうございます。「20歳」を迎えたばかりの皆さんに「国民年金」のお話をしても、まだピンと来ないかも知れませんが、皆さんには、社会人として国民年金を知る「権利」と加入する「義務」がありますので、これを機会に、ぜひ覚えて実行してください。

国民年金は、国が責任をもって運営している公的年金のひとつです。

▶加入者は……
日本国内に住所を有する20歳から59歳までの人で、
①農林漁業や個人商店など自営業者(無職の人も含みます)
→「第1号被保険者」といいます
②サラリーマン(厚生年金保険、共済組合の加入者本人)→「第2号被保険者」といいます
③サラリーマンの被扶養配偶者
→「第3号被保険者」といいます
④昼間部の学生及び60歳から64歳までの人で希望によって加入する人
→「任意加入被保険者」といいます

●1月の心配ごと相談

日時…16日、25日・午前9時から正午まで
場所…福祉センター老人室
内容…生活相談・医療相談・家事相談・児童相談・年金相談・身障相談・職業相談
その他なんでも
その他…相談内容は秘密で費用は無料です。

おかあさん わすれちゃダメよ!

—保健衛生行事—(1月)

月	日	曜	内容	対象	時間	場所
1	23	火	リハビリ	希望者	午後1時～4時	福祉センター
	26	金	療育相談	子育てについての相談・あそびの教室	午前9時30分～12時	与板町てまり荘

